

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

**このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。**

中華人民共和国主席江沢民閣下東北大学ご訪問記念特別展 — 魯迅と東北大学 —

記念資料室

去る11月29日、江沢民中華人民共和国主席が国賓としてはじめて東北大学に来学され、近代中国の精神的支柱ともいわれる文豪魯迅（本名周樹人：1881－1936）が仙台医学専門学校に留学していた当時の関係資料を展示した記念資料室と、今も片平キャンパス内に残る仙台医学専門学校の階段教室とを訪れた。阿部博之総長の先導・阿部兼也名誉教授の解説により資料を見学された主席は、前夜したためたという揮毫の漢詩文を阿部総長に直接手渡され、その後魯迅が学んだ階段教室を見学して、次の訪問地である北海道へと向かわれた。

この江沢民主席来訪を記念し、記念資料室では12月1日（火）から6日（日）までの6日間、江沢民主席来訪時に展示された魯迅関係資料と、来学に際しての江沢民主席から本学への寄贈品を一般公開する特別展を開催した。また同

時に江沢民主席が訪れた仙台医学専門学校の階段教室も公開され、期間中約5,000にもおよぶ人々が片平キャンパスを訪れた。

魯迅は1904年秋から1年半の間、本学医学部成立の前史にあたる仙台医学専門学校に留学し、生涯心の師と仰いだ藤野厳九郎教授との出会い、医学から文学への転向の決意といった、彼の人生を左右する重要な体験をする。現在、記念資料室に保存されている仙台医学専門学校の公文書類には、この魯迅が医学専門学校に入学する際の手続文書や名簿、無断欠席の記録、成績表、退学に関する記録類など仙台医学専門学校時代の魯迅の足跡をたどる重要資料が多く含まれており、今回はこれらがまとめて展示された。

魯迅の資料のなかで最も注目を集めたのは、一年級の学年成績表である。ただし藤野教授の



魯迅資料を見学される江沢民主席



特別展で魯迅資料を見る入場者と報道陣

担当する解剖学が不合格であったこと、「魯迅」の名があまりにも著名であることなどから、あまり成績が良くなかったという印象を多くの人々が抱いたようであった。142名中の68番という成績は、留学生としてのハンディをも考慮すれば、決して悪い成績とはいえないだろう。このほかにも、仙台医学専門学校時代の同級生たちとの交流を物語る記念写真や、北京の魯迅博物館に保存されている、藤野教授によって添削された魯迅のノート（写真）などが併せて展示され、「医学生」としての魯迅を物語る数々の資料に多くの人が見入っていた。

また、会場には、江沢民主席から本学に送られた揮毫の漢詩文と青花白磁の瓶（青花白磁梅花双禽図瓶）も展示された。漢詩は、紅葉や廣瀬川の流れといった仙台の風景を盛りこみ、さらに唐の詩人王維が遣唐使として日本から派遣され唐王朝に仕えた阿部仲麻呂との別れを惜しんで詠んだ詩を引き合いに出して、中国と日本の友好関係をこれからも続けていくべきことを読んだものである。この展示ケースの前では、記念撮影に興じる人が絶えることがなかった。



江沢民主席から寄贈された揮毫の漢詩文と青花白磁の瓶

期間中は、市内・県内はもちろん、県外からの見学者も少なくなく、中にはご先祖が魯迅と同時期に仙台医学専門学校に在学されていた方などもおられた。そしてこれらの見学者のほとんどが、特別展のみならず東北大学の歴史をテーマとした常設展示の方にも強い興味を示されていた。何よりも、これほど多数の見学者を記念資料室に迎えるということ自体がかつてないことである。魯迅や江沢民主席の資料の公開のみでなく、東北大学の歴史や、それを物語る資料を保存する記念資料室の意義そのものを、多数の方に知っていただいたという点でも、きわめて有意義な展示会となった。

なお、魯迅に関する資料の一部は、今後も常設展示の中で展示公開していく予定である。

平成10年度企画展 「東北大学附属図書館所蔵 貴重資料展」開催結果報告

はじめに

附属図書館では、平成10年10月30日～11月6日までの8日間、本館視聴覚室において標記企画展を開催した。

本館では、大学公開事業の一環として、今年度からエントランスホールに常設の展示コーナーを設置し、常時資料の展示を行っているが、今回の企画展も同様の趣旨により実施したものである。今回は、本格的な資料展示会としては、4年ぶりであったこと、大学祭と同じ時期に開催したこと等により、来場者数は8日間で1,195名（1日平均約150名）と、まずまずの数にのぼり、一般市民の方々も多数来館していただいた。以下、今回実施したアンケート結果も含めて企画展の開催結果を報告する。



開会式でのテープカット



展示見学

企画展の内容と結果

（1）記念講演会

本学東北アジア研究センターの平川 新教授を講師に迎えて、初日10月30日に記念講演会を開催した。演題は、「はじまりの伊達騒動 ～テキストに潜む虚偽～」。テーマが地元仙台に因むものであったこともあり、参加者は107名で、用意した席は、ほぼ満席となった。



記念講演会

講演内容は、伊達騒動の通説に「潜む虚偽」を事実関係により一つ一つ明らかにすることで、伊達騒動の実像に迫ろうという大変興味深いものであった。これについては、次号に概要を掲載して紹介することにしたい。

（2）資料展示会

今回の展示会では、本学が所蔵する資料を学生、教職員、市民の方々にとにかく広く知っていただくという趣旨から、特定のテーマを設けず、貴重資料展とした。これは、ほぼ4年前に開催した展示会と同じである。しかし、限られたスペースでの開催ということもあり、仙台あるいは東北地方に関連する資料を中心に、さらにそのなかから絞って約80点を選定し、以下の

7つのグループを設けて展示することにした。グループ名からもわかるように、今回の展示会の特徴は、多数の古文書を展示したことである。解説以外に翻刻を作成する等の作業は増えたが、後述するアンケート結果からも好評だったことが窺える。

- ① 国宝、中尊寺経等 (5)
- ② 近世の絵本 (6)
- ③ 近世東北の風景 (11)
- ④ 近世仙台の名家自筆本等 (10)
- ⑤ 伊達家関連史料 (12)
- ⑥ 武家文書の展開 (12)
- ⑦ 奥州大名家蔵品 ～秋田家文書より～ (15)
- ⑧ 特別展示 (2)

⑧は、企画展の直前に数学科図書室より本館に移管された「ユークリッド幾何学原論」と「関流和算免許状」の2点を特別展示として紹介することにしたものであった。

(3) パネル展示等

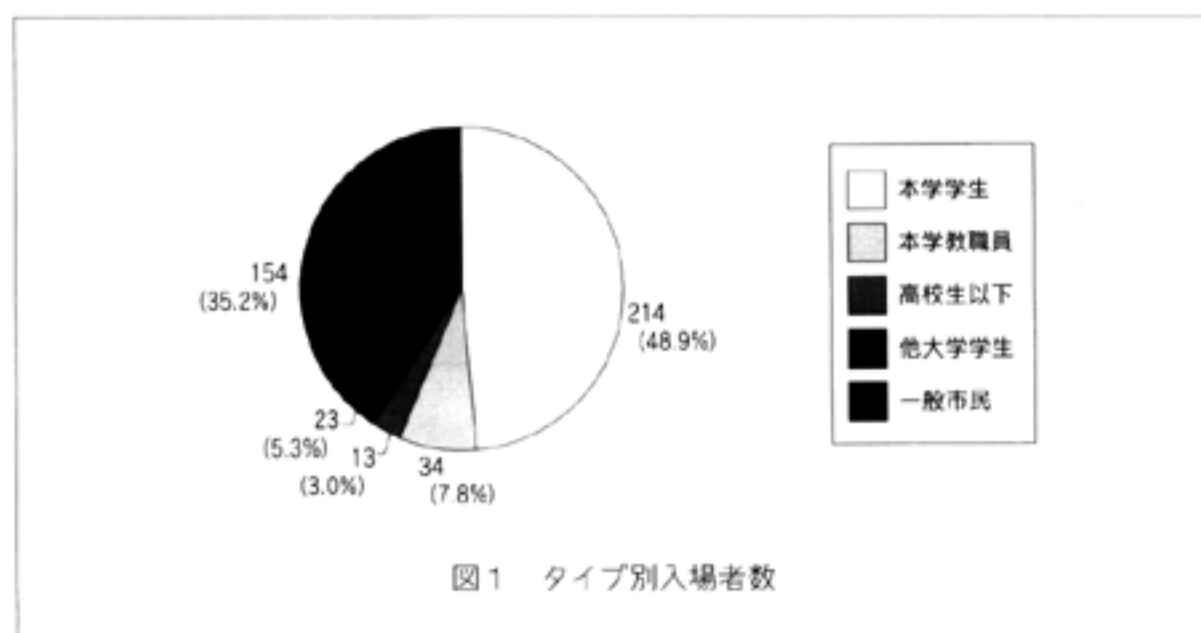
エントランスラウンジにおいて、「東北大学附属図書館の歩み」及び「東北大学附属図書館特殊文庫紹介」コーナーを設けて、パネルと写真による展示を行った。また、附属図書館紹介ビデオの放映並びにインターネットによる展示内容の紹介 (<http://www.library.tohoku.ac.jp/>) も合わせて行った。

アンケート集計結果

回収したアンケート数は、全部で438枚。入場者が1,195名であったことから、回収率は36.7%となる。以下、アンケート集計結果を概略紹介する。

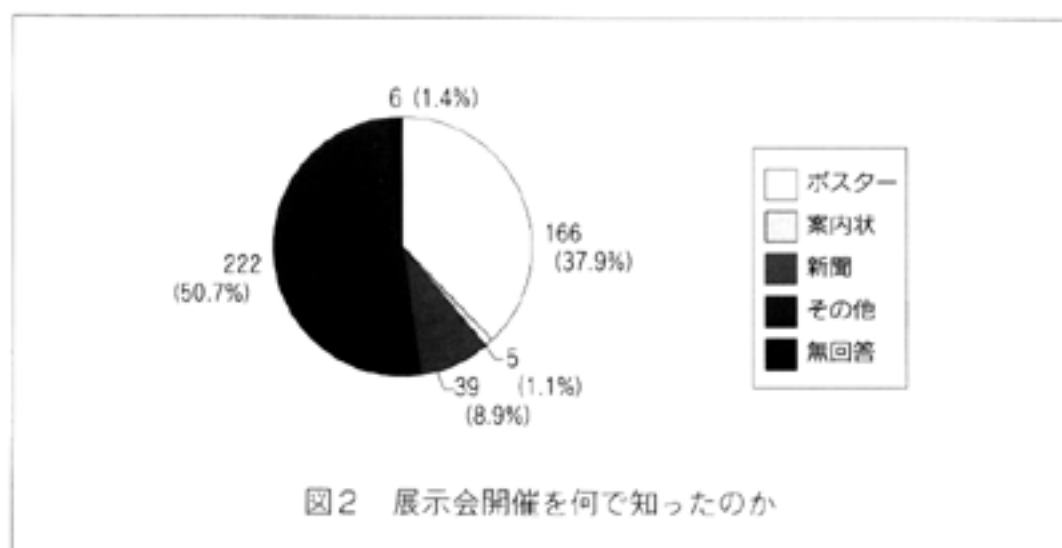
(1) 来場者について

来場者は、本学学生が214名 (48.9%) と一番多く、一般市民が154名 (35.2%) で続いている。来場者を学内者、学外者で分けると、学内者 (学生、教職員) が248名 (56.6%)、学外者が190名 (43.4%) となり、学外者の割合が4割を超えている。



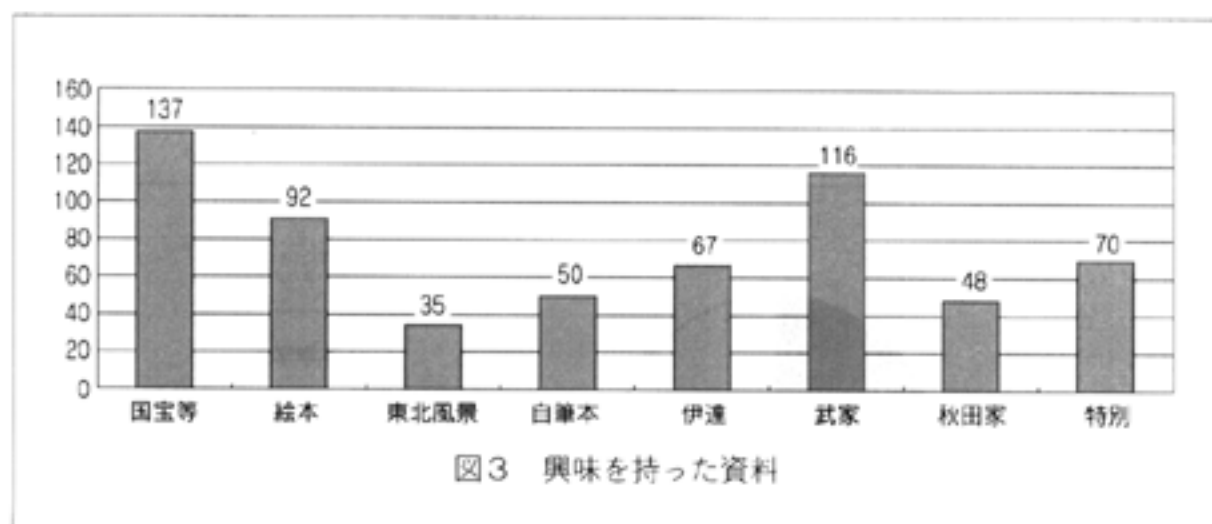
(2) 企画展に関する情報の入手先について

展示会の周知は、ポスター、案内状送付、館報、学報、インターネット更に報道機関への連絡などの方法をとった。情報の入手先としては、ポスターによるものが166名(37.9%)、続いて、新聞39名(8.9%)、案内状5名(1.1%)、その他222名(50.7%)であった。その他の222名についてさらに内訳をみると、現場(図書館に来たとき)が72名(32.4%)と一番多く、テレビのニュースが34名(15.3%)で続いているが、まとまった区分けができないものがやはり多い。広報は、種々の手段による必要があることがわかる。



(3) 興味をもった展示物について

興味を持った資料という設問に、自由形式で回答してもらったものをグループ毎に集計したのが図3である。すべて資料について興味深かったという回答も8件あった。



おわりに

来場者のなかには、何時間も展示物に見入っている熱心な方もおられた。また、会場あるいはアンケートのなかで、貴重なご意見・アドバイスもいただくことができ、さらに、このような展示会を継続して開催して欲しいとの強い要

望も多くの方からいただいている。次回開催時には、これらのご意見等を参考にしつつ、できる限り期待にこたえるかたちで実施したいと考えている。

なお、企画展開催に際し、全面的なご支援をいただいた各位にあらためて感謝申し上げたい。

記念資料室企画展 ― 卒業式に見る明治・大正・昭和 ―

記念資料室

記念資料室では、10月26日（火）から11月13日（金）にかけ、明治中期から現代に至る卒業式の変遷をテーマとした企画展「卒業式に見る明治・大正・昭和」を開催した。期間中「片平まつり」（10月31日、研究所一般公開）が開催されたこともあり、約600名の見学者があった。

会場では、本室所蔵資料中の東北大学およびその包摂校における卒業式の様子を復原できる資料およそ60点を、年代順に以下の9コーナーに分けて展示した。

①明治中期の卒業式 ― 第二高等中学校 ―

漢文体で綴られた卒業生の答辞文はじめ、創設期の二高卒業式に関する写真や文書など

②優等生の誕生 ― 仙台医専・仙台高工 ―

仙台医専の卒業式での優等賞品授与に関する文書や、帝大工学専門部（仙台高工）で授与された銀時計（青葉工業会保管）を中心に、医専・高工での卒業式資料

③帝国大学の卒業式とその廃止

大正3年の第一回卒業式から大正8年に卒業式が廃止される頃までの、東北帝大卒業式の答辞・告辞文、記念写真、卒業証書等

④女子専門学校の卒業式

優等賞品として授与されていた「姫鏡台」や卒業写真等、大正末から戦中期に至る宮城県女子専門学校の卒業式に関する資料

⑤帝大卒業式の「復活」

昭和4年から復活した東北帝大の卒業式について、その目玉として導入された「卒業記念講演」に関する資料など

⑥戦時下の卒業式

戦時下の時局を反映する告辞・答辞等。また期間中本学卒業生より寄贈された、学徒出陣の際に発行された「仮卒業証書」も併せて展示。

⑦終戦直後の卒業式

戦後の新しい時代への不安と希望を謳った答

辞文、学制改革による廃止をむかえた二高・女専などの卒業に関する資料。

⑧戦後卒業式の変化

紛争に揺れる大学の大学・学生の姿を盛り込んだ答辞文、移転に伴い片平から川内の記念講堂へと場所を移した卒業式の写真等。

⑨卒業式の現在

卒業生総代のパフォーマンスが名物となった昭和50年代から現在に至る卒業式の答辞・告辞や写真、式の様子を記録したビデオ等。

「卒業式」という、学校の中で最も重要な行事には、その時代における学校・教育・学生の雰囲気の色濃く反映されている。見学者へのアンケートによれば、各時代の雰囲気をそのまま反映した答辞文や、記念写真に見える時代時代の学生の服装等について興味が集まったようであった。こうした「卒業式」にまつわる数々の展示資料を通じて、明治以来の時代の雰囲気を多くの人に味わっていただくことができたようである。

なお、来年度以降も引き続きこうした企画展を開催し、所蔵資料の展示公開を進めていく予定である。



東北帝国大学第1回卒業写真（化学科）

第53回東北地区大学図書館協議会総会

第53回東北地区大学図書館協議会総会は、平成10年9月17日～18日の両日、青森公立大学を当番館として青森厚生年金会館を会場に、加盟館から49館（新規加盟館を含む。）82名の参加を得て開催された。

当番館青森公立大学職員の司会により開会され、青木雅明青森公立大学図書館情報センター長の開会挨拶、加藤勝康同大学学長の歓迎挨拶、常任幹事館の東北大学小田忠雄附属図書館長の挨拶があり、議事に入った。

本総会では、永年勤続表彰について、元弘前大学附属図書館塩谷玲子氏、元東北大学附属図書館米倉進氏、元東北大学附属図書館農学分館沼田恵美氏の3名に対し、永年にわたる図書館活動並びに本協議会への貢献をたたえ、常任幹事館長より所属図書館長を介して退職時に表彰状と記念品の伝達が行われた旨の報告があった。

総会における主な協議事項並びに各部会での協議事項は以下のとおりである。

（1）新規加盟について

岩手県立大学メディアセンターから新規加盟についての要望が出され、満場一致で加盟が承認された。

（2）災害時の協力体制について

（3）第54回総会以降の当番地区について

（4）平成10年度の合同研修会について

（5）その他

- ・東北地区大学図書館協議会誌50号の発行について

総会の後、各部会に別れて部会が開催された。

次回総会は、盛岡大学が当番館として開催することとなった。

国立大学図書館協議会理事会 （平成10年度第3回）

国立大学図書館協議会理事会は、平成10年11月5日～6日の両日、本学附属図書館を会場に22大学から61人が参加して開催された。

雨森弘行協議会事務局長の開会の辞に続いて、六本佳平協議会長の挨拶があり、議事に入った。

理事会では、報告事項に続き協議に入り、1）総会の運営について、2）第45回総会の理事会付託事項について、3）図書館における規制緩

和について、4）国際ILLラウンドテーブル開催資金の取扱について、5）第46回総会について、6）その他について熱心に協議が行われた。

また、理事会に先立って、国際情報アクセス特別委員会、著作権特別委員会、常務理事会、図書館電子化システム特別委員会、協議会賞受賞者選考委員会並びに海外派遣候補者選考委員会が開催された。

第11回国立大学図書館協議会シンポジウム（東地区）

第11回国立大学図書館協議会シンポジウム（東地区）は、平成10年12月1日～2日の両日、本学附属図書館を会場に27大学から40名が出席して開催された。

本シンポジウムは、「大学図書館における事務改善・合理化の進め方」及び「国際ILLについて」をテーマとして、大学図書館が直面している課題について2日間にわたり開催された。

第1日目には、「学術情報環境の変容とその対応について」と題して、筑波大学情報管理課長内藤英雄氏の基調講演があり、その後、「図書館組織・機構特別委員会の活動について」と題して筑波大学情報管理課長内藤英雄氏、「業務の合理化・効率化の追求について」と題して茨城大学情報サービス課長宮内修氏、「時代変化と図書館業務の改善について」と題して新潟大学情報サービス課長松藤典生氏の三氏から事例報告がなされ、これらについて活発な質疑応答が交わされた。

第2日目には、「国際アクセス特別委員会の活動について」と題して東京大学総務課長笹川郁夫氏、「海外ILLについて」と題して新潟大学情報サービス課長松藤典生氏、「文献複写料金に係る国際決済上の問題点について」と題して東北大学経理部法規掛長八木巻一男氏の三氏から事例報告がなされ活発に質疑応答がなされた。この後、全体会議、総まとめでしめくり2日間にわたるシンポジウムは大きな成果を得て閉会した。



第39回東北地区医学図書館協議会

標記協議会は、平成10年10月23日（金）、当番館山形大学附属図書館医学部分館を会場として、加盟館7大学から館長（分館長）及び主任司書14名が参加して開催された。

議事に先立ち近藤山形大学附属図書館医学部分館長から挨拶があり、会則に基づき議長に当番館の近藤分館長が選出され、出席者の自己紹介の後、議事に入った。報告事項、協議事項及び承合事項等は以下のとおりである。

報告事項：①各館の近況報告、②日本医学図書館協会理事会報告、③日本医学図書館協会評議員会報告、④BLDSC(The British Library Document Supply Center)文献複写利用報告。

協議事項：①第71回（平成12年）日本医学図書館協会総会について、②図書の保存と廃棄に

ついて、③外国雑誌の高騰への対応サービスについて、④外国雑誌の高騰と図書館サービスについて、⑤次期当番につて。

承合事項：外国雑誌1999年版について。

外国雑誌購入価格の高騰への対応と図書館サービスにおいては、外国雑誌購入価格の高騰により各大学は大幅な雑誌の中止を余儀なくされ、各館とも抜本的な見直しを実施して対応していることが報告された。このような状況は図書館サービスの低下を招くことから、その対策として地区としての分担収集、分担保存について、活発な意見交換が行われた。次期当番館として秋田大学附属図書館医学部分館を選出し、会議を終了した。

（医学分館）

平成10年度 東北大学附属図書館職員総合研修会

平成10年度の図書館職員総合研修会は、去る11月26日（木）13:00～17:00 附属図書館2号館大会議室において学内外から約50名の参加者を集めて行われた。

研修会では、まず大学院経済学研究科助教授 権奇哲先生から「知識社会、革新とプロデュースシップ」と題して、次に大学院情報科学研究科・情報処理教育センター教授 静谷啓樹先生からは「安全な情報社会の構築に向けて」という題でご講演をいただいた。

権先生には、「大学のなかで図書館が生き残っていくには？」という問いかけに対し、「知識がパワーの最も重要な源泉となり、社会進化の方向と速度を決定する“知識社会”における組織の生存・成長には、継続的かつ高度な“革新”の実践を要求する」という切り口で、貴重な示唆をいただいた。



また、「ネットワーク時代を迎えた図書館における情報セキュリティ」についてお願いした静谷先生からは、「安全な情報社会の構築のための基本的道具としての暗号理論やゼロ知識証



明の原理」について平易に解説していただくとともに、「情報倫理教育の重要性」にもふれていただいた。

いずれも、①職員各自が着実に能力を開発して望む成果を実現し、②革新的・発展的思考が育まれ、③共通の目標に向かって自由に飛翔する、④共同して学ぶ方法を問いつづける、「学習する組織」への脱皮を標榜した今回の研修テーマに相応しい内容であった。

お忙しいなか時間を割いて図書館員のためにご講演いただいた、権先生、静谷先生には心から御礼申しあげる。

ジェットコースターの上で次々に迫りくる課題を瞬時に判断し対処していかなければならない、サドンデスの生き残りゲームともいえるような現在の社会状況では、従来型の経験を重視する組織では対応しきれないであろう。

その意味でも、自己マスタリー（≧自己研鑽）が重要となる。特に、若手の職員が環境に馴れて折角の資質を眠らせないように、適切な刺激を与える機会が必要である。

また、職員が担当業務以外にも幾つもの仕事を抱えている時代に、まったく別の次元で人気投票的に選ばれた委員で研修会を主催するのは問題も多く、前回の改正から20年にもなろうとしている「総合研修委員会内規」との間にも齟齬を生じており、見直す時期にきていると思う。

図書館機能のアウトソーシングさえ検討されている激変する環境下では、科学的理論に裏打ちされた組織的取り組みが重要であり、過去に囚われ学ぶことを避けるために途轍もない能力を発揮する、いわゆる「熟練した無能」に陥らないよう自戒したい。

「貴方が図書館員として図書館にいる積極的な理由は？」この問いに私たちは確信を持ってこたえられるのだろうか。単に業務に粉骨砕身しているというだけではすまない時代である。

最後に、今回の研修のお世話をいただいた各研修委員、並びにご支援いただいた皆様に感謝申しあげる。

（総合研修委員長）

附 属 図 書 館 の 概 況

この概況は毎年実施される大学図書館実態調査のうち主な項目をとりまとめたものである。表1は平成7年～平成9年度の概況、表2は平成9年度部局別のそれである。

表 1

区 分		平成7年度	平成8年度	平成9年度
蔵 書	和	1,682,385 冊	1,716,662 冊	1,739,341 冊
	洋	1,642,318	1,678,133	1,708,785
	計	3,324,703 冊	3,394,795 冊	3,448,126 冊
所 蔵 雑 誌 数	和	23,524 種	24,973 種	26,596 種
	洋	35,780	34,361	34,659
	計	59,304 種	59,334 種	61,255 種
年 間 受 入 数	和	33,466 冊	35,395 冊	34,357 冊
	洋	36,112	36,001	34,570
	計	69,578 冊	71,396 冊	68,927 冊
年 間 雑 誌 受 入 数	和	11,241 種	11,637 種	11,380 種
	洋	9,489	9,419	9,290
	計	20,730 種	21,056 種	20,670 種
奉仕対象者数	学 生	18,309 人	17,985 人	17,986 人
	教 官	2,645	2,524	3,843
一人当り奉仕対象	蔵書数(冊)	158.7	165.5	158.0
	年間受入冊数(冊)	3.3	3.5	3.2
	図書館資料費(千円)	39.2	36.9	42.6
図書館職員数	総 数	142	141	142
	専 任	76	77	76
	臨 時	66	64	66
図書館職員1人当り奉仕対象者数		147.6	145.5	153.7
図書館資料費(千円)		820,644	756,926	929,301
大学総経費(千円)		93,735,333	93,382,205	84,871,440

表 2

部 局		職員数(人) は定員外職員 の内数	蔵 書 (平成10年3月31日現在)						平 成 9 年 度 受 入 冊 数						平 成 9 年 度 経 費					施設(平成10年5月1日現在)				
			図 書 (冊 数)			雑 誌 (種類数)			図 書 (冊 数)			雑 誌 (種類数)			図 書 館 資 料 費				運営費 職員給与除 (千円)	座席数 (席)	延面積 (㎡)	閲覧室 スペース (㎡)	書 庫 スペース (㎡)	収容可能 冊 数 (冊)
			和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	図 書 (千円)	雑 誌 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)						
本 館	本 館	58 (25)	671,770	347,031	1,018,801	10,834	7,315	18,149	11,468 (6,698)	4,239 (2,883)	15,707 (9,581)	2,982 (460)	929 (462)	3,911 (922)	84,231	44,441	4,665	133,337	209,746	1,141	18,215	4,156	6,847	1,751,528
	文 学	2 (2)	236,344	133,823	370,167	1,164	979	2,143	5,842 (3,919)	3,552 (2,778)	9,394 (6,697)	639 (256)	519 (506)	1,158 (762)	64,948	11,461	0	76,409	4,153	1	68	2	10	4,972
	教 育	2 (2)	52,332	36,749	89,081	706	417	1,123	1,034 (492)	1,248 (334)	2,282 (826)	613 (116)	235 (226)	848 (342)	9,257	6,903	0	16,160	9,678	20	268	89	90	11,950
	法 学	3 (0)	98,488	128,514	227,002	1,012	730	1,742	1,334 (820)	2,634 (1,681)	3,968 (2,501)	842 (210)	580 (516)	1,422 (726)	19,459	22,000	7,225	48,684	3,520	35	835	65	580	80,778
	経 済	5 (3)	171,679	164,078	335,757	1,556	1,130	2,686	4,612 (2,062)	3,543 (1,394)	8,155 (3,456)	835 (147)	525 (446)	1,360 (593)	36,129	17,838	0	53,967	17,002	18	286	46	73	27,472
	遺 生 研	1 (0)	17,940	12,233	30,173	445	309	754	102 (14)	239 (45)	341 (59)	123 (29)	101 (74)	224 (103)	1,028	5,844	0	6,872	756	4	206	18	160	30,444
	素 材 研	1 (1)	8,206	16,837	25,043	178	369	547	97 (10)	226 (33)	323 (43)	85 (42)	98 (71)	183 (113)	1,242	10,181	0	11,423	2,685	10	220	40	144	43,528
	科 研	1 (0)	4,438	17,065	21,503	61	263	324	33 (8)	331 (65)	364 (73)	27 (10)	60 (60)	87 (70)	1,372	12,945	0	14,317	1,070	20	574	58	375	36,556
	流 体 研	2 (2)	12,556	19,067	31,623	75	397	472	95 (52)	371 (67)	467 (119)	40 (30)	99 (91)	139 (121)	1,984	10,199	22	12,205	8,543	7	151	5	106	27,778
	通 研	2 (0)	8,309	22,256	30,565	250	476	726	202 (35)	562 (124)	764 (159)	120 (103)	203 (194)	323 (297)	2,735	19,987	0	22,722	2,973	10	275	20	235	39,667
	反 応 研	2 (1)	6,849	24,044	30,893	146	471	617	105 (29)	621 (83)	726 (112)	74 (29)	131 (112)	205 (141)	3,802	20,380	0	24,182	3,489	21	382	63	252	41,194
	マイクロロン	2 (2)	864	4,058	4,922	8	95	103	0 (0)	159 (0)	159 (0)	0 (0)	27 (27)	27 (27)	0	5,837	0	5,837	2,919	4	98	12	35	5,778
	東北アジア	1 (1)	1,984	799	2,783	11	31	42	1,669 (1,463)	704 (656)	2,373 (2,119)	11 (11)	31 (31)	42 (42)	16,435	396	58	16,889	7,211	0	113	0	103	9,333
	計	82 (39)	1,291,759	926,554	2,218,313	16,446	12,982	29,428	26,594 (15,602)	18,429 (10,143)	45,023 (25,745)	6,391 (1,443)	3,538 (2,816)	9,929 (4,259)	242,622	188,412	11,970	443,004	273,745	1,291	21,691	4,574	9,010	2,110,978
医 学 分 館		20 (11)	150,844	237,709	388,553	3,573	9,330	12,903	2,267 (1,138)	4,456 (323)	6,723 (1,461)	1,216 (430)	2,272 (1,936)	3,488 (2,366)	17,512	106,548	300	124,360	53,291	327	4,025	256	2,190	418,222
北 青 葉 山 分 館		11 (5)	68,887	263,556	332,443	1,621	6,376	7,997	1,027 (504)	5,205 (780)	6,232 (1,284)	915 (161)	1,470 (759)	2,385 (920)	22,001	110,856	1,032	133,889	47,196	248	3,356	1,140	1,310	302,389
工 学 分 館		17 (6)	143,263	169,939	313,202	2,557	3,645	6,202	3,242 (1,700)	4,219 (1,924)	7,461 (3,624)	1,597 (438)	1,218 (1,052)	2,815 (1,490)	44,856	98,722	65	143,643	49,059	366	5,355	2,460	605	286,416
農 学 分 館		6 (2)	67,631	52,782	120,413	2,211	1,542	3,753	1,029 (660)	1,105 (249)	2,134 (909)	1,159 (136)	594 (306)	1,753 (442)	6,650	32,970	926	40,546	12,005	72	1,279	326	418	116,944
計		54 (24)	430,625	723,986	1,154,611	9,962	20,893	30,855	7,565 (4,002)	14,985 (3,276)	22,550 (7,278)	4,887 (1,165)	5,554 (4,053)	10,441 (5,218)	91,019	349,096	2,323	442,438	161,551	1,013	14,015	4,182	4,523	1,123,971
金 研		6 (3)	16,957	58,245	75,202	188	784	972	198 (36)	1,156 (143)	1,354 (179)	102 (71)	198 (157)	300 (228)	6,015	36,535	1,309	43,859	10,983	35	515	154	234	63,333
総 計		142 (66)	1,739,341	1,708,765	3,448,126	26,596	34,659	61,255	34,357 (19,640)	34,570 (13,562)	68,927 (33,202)	11,380 (2,679)	9,290 (7,626)	20,670 (9,705)	339,656	574,643	15,602	929,301	446,279	2,339	36,221	8,910	13,767	3,296,232

注)職員数は平成9年5月1日現在

お 知 ら せ

東北大学附属図書館ホームページをリニューアル

附属図書館本館では、附属図書館のホームページを、「より使いやすく」、「より見やすく」、「より読みやすく」、「よりわかりやすく」を基本に、本年12月に新しいホームページに移行しました。また、附属図書館広報委員会に「Webcap」を置き、ホームページの管理・運用のほか、ホームページ作成の指導もすることになりました。更に、スタッフのページを設け、図書館に関する様々な情報の提供・交換を行い、スタッフで情報を共有化することにより、図書館業務の円滑化と本館、分館及び部局図書室間の連携強化を図ることになりました。



本館研究閲覧室の開室時間延長について

経済統計資料約2万冊が配架されている、本館研究閲覧室（1号館2階）の利用時間が平成11年1月から以下のとおり延長されます。

	従 来	延 長 後
平 日	9:00~17:00	9:00~21:00
土曜日	閉 室	9:00~17:00

なお、メインカウンターの閉まっている平日17時以降および土曜日における貸出・返却については、階下カウンターで手続きをお願いします。

会 議

◎学 内

10.10.7 収書委員会

10.10.21 平成10年度第3回川内地区図書委員会

○協議事項

- (1) 平成10年度特別図書の購入について
- (2) 図書館資料の不用決定について
- (3) その他

○報告事項

- (1) 研究閲覧室の開室時間の延長について
- (2) その他

10.12.21 平成10年度第2回分館長会議

○協議事項

- (1) 平成10年度図書館資料費予算（案）について
- (2) その他

○報告事項

- (1) 平成11年度データベース計画調書について
- (2) 2号館への学部学生の入庫状況について
- (3) 平成10年度国立七大学附属図書館協議会について
- (4) 各分館の状況について
- (5) その他

10.12.24 平成10年度第2回商議会議

○協議事項

- (1) 電子情報データベースサービスに関する検討委員会の検討結果について
- (2) 本館における大学院卒業生へのサービスの拡大について
- (3) 本館研究閲覧室の開室時間の延長について
- (4) その他

○報告事項

- (1) 平成11年度データベース計画調書について
- (2) 平成10年度図書館資料費について
- (3) 2号館への学部学生の入庫状況について

- (4) 平成10年度国立七大学附属図書館協議会について

- (5) 各分館の状況について

- (6) その他

◎学 外

10.10.14 国立七大学図書館事務部課長会議

10.10.15 国立七大学図書館協議会

(於：京都大学)

10.10.26～27 国連寄託図書館会議

(於：東京大学)

10.11. 4 学術情報センターとの業務連絡会

(於：東京大学)

10.11. 5～6 著作権特別委員会

常務理事会

協議会賞受賞者選考委員会

海外派遣候補者選考委員会

理事会 (於：東北大学)

10.11.16 文部省による東北地区国立大学附属図書館に関するヒアリング

(於：東北大学)

10.12. 1～2 国立大学図書館協議会シンポジウム (東地区) (於：東北大学)

編 集 後 記

今年度の半ばからは、大きな行事が続いたにもかかわらず、無事終了できたのは図書館職員的一致団結した力だったのでしょう。

その行事を列挙してみますと、10月から11月にかけての本館所蔵の貴重資料公開の「企画展」開催、11月の「国立大学図書館協議会理事会等」開催、12月の「国立大学図書館協議会シンポジウム (東地区)」開催、これと併せて、記念資料室では、10月から11月にかけての「企画展示会」、10月末の「中華人民共和国主席江沢民閣下の記念資料室」ご訪問、12月の「江沢民主席訪問記念特別展」が開催されました。

これら行事のうち、展示会を3回開催し共通して感じたことは、貴重資料の公開は勿論のこ

とですが、大学の施設を一般に公開する必要性である。それは「大学は敷居が高くてなかなかこれねー」という気持ちを解きほぐすことが先決であろうと考えられるからです。

年末のお忙しいところ、本号のためにご寄稿いただき本当にありがとうございました。遅ればせながら第23巻3号を発行することができました。

なお、本年11月から、附属図書館ホームページの管理・運用等については、広報委員会で所管することになり、委員会の中に「Webcap」を委員として配置、新たにその委員として本館の照内弘通、横山美佳並びに高橋菜穂子の3人が加わりましたのでよろしくお願いいたします。

東北大学附属図書館館報「木這子」 第23巻第3号 (通巻84号) 発行日 平成10年12月31日

発行人 辻 英雄 広報委員長 谷内 聡

発行所 東北大学附属図書館 仙台市青葉区川内 電話 022-217-5910